



映画でつながる。未来がはじまる。
By UNITED PEOPLE

5組 18番 名前 小滝結奈

【映画】

第4の革命

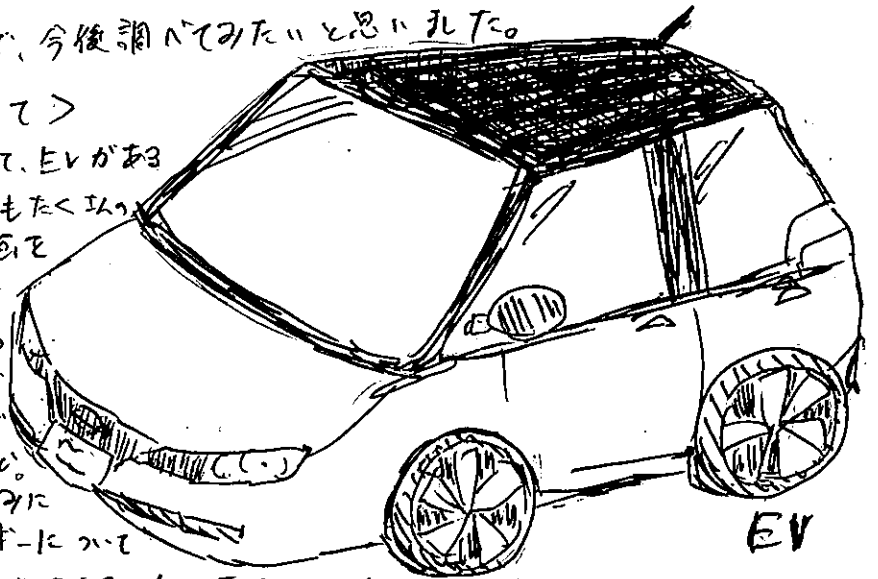
— エネルギー・デモクラシー —

〈再生可能エネルギーについて：変わった考えと新しく学んだこと〉

日本の再エネ率は低く、政府は「エネルギーミックス」という方針で発電を行っています。私は、日本は国土がせまく、広大な土地も少なかったため、再エネ100%を日本で達成するのはいつまでたっても無理だろうと考えていました。しかし、この映画で考えが変わりました。この映画は、ドイツのエネルギー革命について取り上げています。映画内で、「ドイツではタムの大規模建設や政府による大量発電は認めない。しかし、全家庭がソーラーパネル改築をすれば、国の電気の約40%を自給できる。」という話がありました。これは、日本にもいえることだと思います。電気は今まで、「一か所で大量生産、そして送電」が主流でしたが、各家庭、各地域で生産できるようになれば、再エネ100%は達成可能だと思います。新しく学んだこととしては、再エネ普及の壁の1つに、エネルギー企業が関係しているということです。生活のために資源が不可欠な今、エネルギー企業は潤っているといえます。彼らは再エネシフトの流れを拒もうとするため、再エネ普及の壁の1つになっているのです。私は、この辺りのことについて調べたことがなかったので、今後調べてみたいと思いました。

〈再エネ普及とEVについて〉

再エネ普及の1つのカギとして、EVがあると思います。英語部でもたくさん調べたことと言いましたが、この映画を見ても、EV100%の時代は来るだろうなと思いました。EVの技術が発達して、家庭で充電できる家も増えて、EVが普及するまで10年の数十年ほど。この映画を見て、未来が楽しみになりました。これからエネルギーに関して情報をたくさん集めて自分に何が出来るのかも考えていきたいです。





映画でつながる。未来がはじまる。
By UNITED PEOPLE

4組 9番 名前 黒岩 洗太

【映画】

第4の革命 - エネルギー・デモクラシー -

【レビュー】

この現代、“再生可能エネルギー”はさまざまな面から取り沙汰された。

風力発電やバイオマス、太陽光発電... しかし、いま日本は火力発電頼りだ。

この映画は、東日本大震災を受けた日本のエネルギーシフトについて分析・紹介している。

・再生可能エネルギーの出現点

一資源ならあるよ、あとは技術力だ。風や太陽になにかができる？

エネルギー転換は当然無理だと多くの専門家は言う。現在のインフラ基盤は化石燃料が占めており、技術力が、資金が足りないから。そしてなにより、抵抗勢力が大きい、国家規模のシステムを変えることは、腐敗したエネルギー産業の言いなりな政治に黙殺される。

さらには、消費者に訴えようにも、彼らはモラルに訴えかけようとも動かない。絶対に必要なものは、「価格面での魅力」だ。

・エネルギー産業の民主化

政府が扇動していたエネルギーの供給は、再生可能エネルギーによって国単位から地域単位、そして人単位へと移行していく。これがエネルギーシフトの段落であり、民の消費傾向の変革が必須だ。

★化石燃料のままではイケル？ - “二酸化炭素回収貯留” -

化石燃料の問題の一つであるCO₂を回収し地下に貯蔵する方法を使うは、数千年はCO₂を外に出さない... けれど、再生可能エネルギーの方が圧倒的にコストがかからない。現在、推進されているこれは、「次世代の発電技術」ともとれ、また「石油にしがみついたための苦肉の策」ともとれる。また、根底にある「CO₂問題のみが課題である」という認識が改まらなければ、同時に資源の枯渇面でも考えていかなくてはならない。

ヘルマン氏は、再生可能エネルギーのメリットをありありと示し、現在の化石燃料の危うさを証明してみせた。それでもなお動かないこの現状は、老若層とも老害ともとれる社会と人々の意識に起因する。他人事とはえず、一人一人がこの事態を見つめなければ、エネルギーシフトは不可能だろう、というのはヘルマン氏の考えであり、私も賛同するものである。